

平成 26 年度 教育 研究 業績 書

氏名 藤本寿彦

最終学歴	明治大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了	
取得学位	文学修士	
所属学会	日本近代文学会	
専門分野	日本近現代詩 幸田文を中心とする女性表現	
研究課題	昭和初年代におけるモダニズムの諸相 昭和40年代における幸田文の文学性	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・言語・文学(通年)国文学講読(通年) 演習Ⅰ(通年) 演習Ⅱ(通年) 現代文学論(前期) 近代文学概論Ⅱ(後期) 書誌学(後期) ・ ・ ・ ・ ・
	大学院修士課程 担当科目 (博士前期課程含)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本言語文化論Ⅱ(通年) 研究演習(通年) ・ ・ ・
	大学院博士後期課程 担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文学論 ・ ・ ・
【研究上の特記事項】		
【教育上の特記事項】		
【社会的活動】	<ul style="list-style-type: none"> ・日本近代文学会評議委員 ・山形県西川町「青い黒板賞」顧問 ・日本近代文学館図書資料委員 	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	全学人事委員会委員 教務委員会委員 奈良大学大学院年報編集委員	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①				
②				
③				
(学術論文)				
①稲垣足穂「一千一秒物語」と「タルホと月」における試行	単著	「始更」平成26年10月	「始更」発行所	日本近代文学館所蔵の稲垣足穂が執筆した原稿「タルホと月」と公刊された「一千一秒物語」を比較検討することで、大正末の文学状況と足穂が直面した問題について論述した。
②増田みず子「旅の理由」論	単著	「始更」平成26年10月	「始更」発行所	増田みず子の初期短編小説における問題性について、アメリカの女性表現者シルビア・プラスを視野に入れて、特異な物語性を論じた。
③幸田文「きもの」論——「女性」を作る仕掛けとしてのきもの——	単著	「始更」平成26年10月	「始更」発行所	大正期の文化表象としての「きもの」という観点を導入して、従来、幸田文の自伝小説として読解されてきた物語に新しい見解を示した。
④主知的叙情詩への階梯——丸山薫詩集『帆・ランプ・鷗』をめぐって——	単著	「始更」平成26年10月	「始更」発行所	映画的手法による詩作を試みることで、独特な心情表現を確立した丸山薫の第一詩集『帆・ランプ・鷗』が、次世代の詩人が指向した叙情詩の可能性を示し、「四季」的叙情詩を胚胎していったことを論述した。
⑤色彩表現から見えてくる近現代の詩史	単著	「江古田文学」平成27年3月	日本大学芸術学部	大正末期から昭和初期に発表された丸山薫の童謡と三好達治の前衛詩が表象した色彩を手掛かりにしつつ、詩的表現の転換期について論述した。
(学会発表)				
①				
②				
③				
(その他)				
①				
②				
③				